

図書館だより

第19号

八千代市立大和田図書館 482-3240

八千代台図書館 482-0912

勝田台図書館 484-4946

緑が丘図書館 489-4946

ホームページ <http://www.library.yachiyo.chiba.jp>

蔵書点検があります

2月20日(月)から24日(金)まで市内各図書館(大和田図書館・八千代台図書館・勝田台図書館・緑が丘図書館)休館になります。

蔵書点検って

お店でいうと「棚卸」のことです。「曝書」ともいいます。昔は和装本や漢籍本に日光をあてて、乾燥させると同時に殺虫していました。現在では虫干しはしませんが、図書館にある所蔵データと現物を年に一度つき合わせます。

この作業を行うことで、コンピュータ上はあることになっている資料が行方不明になっていないかどうかを確認します。また、間違った書棚にあった場合は正しい所に戻します。

なぜ5日間も休館するの？

現在市内には4つの図書館があります。そして各館7万冊から12万冊の蔵書があります。図書以外にも雑誌、視聴覚資料などがあります。

蔵書点検では、図書や雑誌についているバーコードを一冊一冊読み取って所蔵データと照合します。そして書棚の本が分類順に並んでいるかどうかを確認します。また、内容が古くなったり、汚れたり破損している本は、修理したり書庫に移したりします。

そのためどうしても5日間にかかるのです。

各図書館の休館中はご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願いいたします。



モーツァルト生誕250年



偉大な天才作曲家、Wolfgang Amadeus Mozart は、1756年1月27日オーストリアで生まれました。今年が生誕250周年になります。

生誕地ザルツブルクと死去までの十年を過ごしたウィーンでは各国から観光客が訪れており、各地で様々な記念行事、コンサートが催されています。

モーツァルトの生涯

ヴァイオリン奏者で作曲家のレオポルト・モーツァルトを父としてザルツブルク旧市街ゲトライデガッセで生まれました。生家は現在全館がモーツァルト博物館になっています。幼少時より、父から天才教育を受け最初の作品(k1)は5歳の頃と伝えられています。一家はモーツァルトの才能を伸ばすために、6歳になる前からヨーロッパ各地を訪問しました。1762年ミュンヘン、次いでウィーンでデビュー・リサイタルを開き大評判になりました。翌年にはパリ、ロンドン、オランダそしてスイスに旅行をしました。音楽の重要な中心地を巡りながら、各地の宮廷で演奏し、教会でオルガンを弾き、道中や仮住まいの家で作曲するという旅でした。ロンドンでは、ヨハン・クリスティアン・バッハの影響によって初めて交響曲を書きました。その後も、ウィーンやイタリアへ旅行し、各地の新しい音楽の様式を吸収し、それを作曲面で生かしました。1777年から1779年まで、ザルツブルク司教との不和から故郷を離れ、ミュンヘン、マンハイムやパリなどで職を得ようとしたが果たせず、またパリで同行の母が亡くなるなど不幸が重なり、失意のうちに帰国しました。そして1781年に大司教との仲は決定的に悪化し、以後ウィーンに定住しました。その翌年に父の反対を押し切ってコンスタンツェ＝ウェーバーと結婚しました。この頃はバッハやヘンデルの作品を熱心に研究し始め、作品に一段と深みをみせるようになりました。ウィーンでは貴族や宮廷、教会からの経済的援助を受けずに、作曲、ピアノ演奏や教師などによって生計を立てていましたが、過労と栄養不足で健康を害し、最後は名を明かさない人からの依頼で『レクイエム(死者のためのミサ曲)』を病床にありながら作曲を続けたものの、ついに力尽き未完成のまま世を去りました。葬儀はシュテファン大聖堂内部の十字架小聖堂で行われましたが、最後まで遺体に付き添った人がいなかったため、共同墓地に埋葬され、遺骸は不明となりました。現在聖マルクス墓地にある墓には遺骨は埋められてなく、ウィーン中央墓地にはベートーベンと並んで記念碑が立てられています。



オーストリアでは



ウィーンでは家族と2年半暮らした家を改装して「モーツァルトハウス・ウィーン」として1月27日に開館しました。マルチメディアでオペラ「魔笛」を再現しています。またザルツブルクでは、「カローリーノ・アウグステーウム博物館」が同日に開館し、モーツァルトの遺品を展示しています。演奏会も世界各地で開催されますが、ザルツブルクでは同日夜にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団が記念コンサートを開きました。また夏のザルツブルク音楽祭では、作曲したオペラをすべて上演します。

モーツァルト効果って

「モーツァルトのピアノソナタを学生に聴かせたら空間認識の能力が上がり、抽象的な思考能力が高まり知能指数（IQ）が上昇した」という1993年の米国ウィスコンシン大学の発表が、モーツァルトブームを巻き起こしました。「モーツァルトの音楽には3500ヘルツ以上の高周波を豊富に含んでおり、この高周波音が脊髄から脳にかけての神経系を効果的に刺激し、その結果体をリラックスさせる副交感神経の働きが促され、免疫力の向上や心拍・血圧の安定、脳神経疾患の改善が見られる」と埼玉医科大の和合教授が報告しています。

ケッヘル番号

モーツァルトは作品に番号を与えなかった為混乱を招くことが多かったことから、オーストリアの鉱物学者・植物学者で音楽研究家のケッヘルが作品年代順に通し番号をつけました。この『モーツァルト作品目録』はその後何度も改訂されています。

図書館にある本

「モーツァルト」
ピーター・ゲイ
岩波書店

「モーツァルトと日本人」
井上太郎 平凡社

「モーツァルトのウィーン」
三雲ひろ太 日本交通公社

「モーツァルト」
人と作品シリーズ
西川尚生
音楽之友社

「モーツァルトを求めて」
吉田秀和 白水社

「健康モーツァルト療法」
和合治人 春秋社

CD「ピアノソナタ集」
ワルター・ギーゼキング
東芝 EMI

CD「フィガロの結婚」
チェリル・スチューダー

他にもたくさんありますので、是非手に取ってください。

第134回芥川賞・直木賞がきました。

芥川賞・ 絲山秋子『沖で待つ』
直木賞・ 東野圭吾『容疑者xの献身』



どんな作品に贈られるの？

作家で出版社の社長でもある菊池寛が 1935 年に友人だった芥川龍之介と直木三十五から名前を取って作った賞です。入選作は年に2回、1月と7月に選ばれます。芥川賞こと芥川龍之介賞は新人作家を対象に、優れた純文学作品に贈られます。

また直木賞こと直木三十五賞は新進・中堅作家が対象で、優れた大衆文学作品に贈られます。共に、応募方式ではなく、半年間に新聞や雑誌に発表された作品の中から出版社の編集者約 20 人が候補を選んで6, 7冊まで絞り込んだ後、約 10 人の作家からなる各賞の選考会で選びます。選考会委員は候補作に○(1点)、△(0,5点)、×(0点)の3つの記号で点を付け、協議できめます。受賞者は懐中時計と副賞の100万円をもらえます。

2月の図書館の行事

本のリサイクルフェア

2月4日(土) 午前9時半から11時半まで教育委員会庁舎で行われました。

提供資料は図書約12,000冊 雑誌3000冊の合計15,000冊で、図書館で除籍されたものと市民の方に寄贈していただいたものです。

ご協力ありがとうございました。

図書館活用講座

2月7日(火) 午前10時からと午後2時からの2回、インターネットの検索の仕方を学びました。

好評でしたので、来年度も企画いたしますのでご参加ください。

親子で楽しむおはなし会

2歳前後から3歳までの親子
日時：2月15日

*大和田図書館

午前10時半～11時

*緑が丘図書館

午前11時～11時半



編集後記

先日の大雪はなんと20何年ぶりとか。白い雪を見るとなんだか心が洗われる感じがしますが、その後の雪かきは大変でした。でも2月4日は立春です。前日の節分には、皆さんの家庭でも豆まきをされましたか。なかには家の入り口に焼いたイワシの頭を飾ったり、ヒイラギの葉を飾る家庭もあるとか。春が待ち遠しいですね。

図書館だより 第19号

*編集 勝田台図書館

八千代市勝田台 2-5-1

TEL047-484-4946

*発行日 平成18年2月